

「生まれてきてよかった」

一年四組 東 愛 実

「生きる」とはなにか？なぜ生まれてきたのか？なんのために今私は生きているのか？そんな悩みを私はずっと抱えて生きてきました。人間を含め、生きているものには避けることのできない「死」というものがあります。「死」とは何かも分からない私にとっては、「生」や「死」はあまりに漠然としていて、掴み所のない存在です。最も身近ともいえる存在が、私にとっては、最も遠くかけ離れた存在のように思えてしまっていました。しかしこの本を読み、自分がどれだけ「自分自身の力で歩く」ということを放棄していたか、それに気づくことができました。

あすかの親友であるめぐみは、重度の障害を持って生まれてきました。体はほとんど動かすことができず、そして十二歳でこの世を去っていきました。私は正直にいうと、そんな人生に意味なんてあるのかと、そう思ってしまいました。しかし何度か読み返し、考えていくうちにあるひとつのことに気が付きました。この本の中で、めぐみの表情・感情を書き表しているところがあります。それはすべて「うれしそうに」や「楽しそうに」「幸せそうに」というように、めぐみは幸せな人生を送ったと読み取れるのです。そして亡くなったその瞬間でさえ、幸せそうに微笑んでいました。なぜそんなに幸せだったのでしょうか？それは生きていることが生きる意味だったからではないのでしょうか？私は今まで生きている意味を考え、納得のいく答えが出せず、生きていく意味などないのだと思い続けてきました。そのため自分の人生なのに人まかせで生きてきました。しかしめぐみは人まかせに生きようとしませんでした。たくさんの人に支えられ、助けられながらも、自分自身の力で生きていきました。だから生きていることに意味を感じられたのだと思います。自分は今生きているのだという自覚があったからこそ幸せだったのだと思います。めぐみの力は他人を押しつけて自分が一番になろうとするようなものではなく、ただただひたむきに自分自身の足で人生を歩いていく力です。きっとその強くやさしい力が周囲の人の心を暖かくさせることができたのだと思います。

生きていくことはすごいこと。今生きていることがそれだけで自分の生きる意味。私はこれから後百年あるかもしれない、五十年かもしれない、もしかしたら明日には終わってしまうかもしれないこの私の人生を、せめて「生きる意味」を気づけた今からは、自分自身の足で一步一步しっかりと歩みだしていきたいです。そして私が私としてこの世の中に

生まれてきたことを誇りに持てるような、そんな人生を歩みたいです。

ハッピーバースデー 青木和雄 吉富多美 金の星社